2023 － 24 年度　国際ロータリー会長テーマ
『世界に希望を生み出そう』
RI 会長　ゴードン R. マッキナリー

川崎北ロータリークラブ会長テーマ
『希望と夢を、ロータリーから！』
会長　帯谷 昌充

Rotary 川崎北ロータリークラブ

川崎北ロータリークラブ会報

世界に希望を生み出そう

会　長　帯谷 昌充　　幹　事　妻鹿 琢生　　会報委員長　大塚 正一
事務所：〒211-0063　川崎市中原区小杉町 3-70-4 ホーユウパレス武蔵小杉 104　TEL 044-722-8037　メール：knrc@nifty.com
URL：http://kawasaki-north-rc.blue.coocan.jp/　例会：毎週水曜日　12：30　二子玉川エクセルホテル東急

第3046例会

令和6年2月14日（水）
（本年度第 25 回）

点　鐘　帯谷昌充 会長

司会と斉唱　加瀬健史 副会場監督
菅沼舜 ソングリーダー
「奉仕の理想」

6RC 会長紹介　帯谷昌充 会長

出席報告

会員数45名	出席22名	欠席23名
（対象外6名）		出席率56.41%
前々回訂正	欠席16名	MAKE UP 3名
（対象外4名）		訂正出席率78.05%

お客様紹介　帯谷昌充 会長

東京渋谷ロータリークラブ　久野和禎 様
国際ロータリー第 2590 地区ガバナー　樋口明 様
国際ロータリー第 2590 地区ガバナーノミニー　大塚正一 様
国際ロータリー第 2590 地区パストガバナー　川野正久 様
国際ロータリー第 2590 地区幹事　黒田隆嗣 様
国際ロータリー第 2590 地区 第 2 グループ ガバナー補佐　鈴木正紀 様

ご挨拶　第 2590 地区　樋口明ガバナー

国際ロータリー第 2590 地区 6 クラブ合同例会まことにおめでとうございます。また、1 月 1 日に発生した能登半島地震に関しましては、皆様のご協力で 600 万円送金させていただくことができました。ありがとうございます。

本日は久野先生の卓話を楽しみにして参りました。同じロータリアンという立場で、「時代の変化にどう生きるか」というお話、楽しみにしています。
ロータリーの変化ということでは、ロータリーは 3 年に一回、規定審議会で変わっていきます。例えば、2016 年には出席のメークアップは 1 年に変更、職業分類による同じ業種の会員数の制限廃止、入会金の規定削除などの変化がありました。2019 年、ローターアクターはロータリアンと規定上は同格という扱いになりました。2022 年、現在のガバナンス体制ではロータリーは衰退するという懸念から、2030 年までに新体制を構築する「SRF（ロータリー未来形成）」が発表されました。今、この言葉は使われなくなりましたが、オセアニア地域と英国＆アイルランド地域に限定して試験的に行われています。ロータリーは 119 年も続いていますが、このように過去から未来への変化がなければ、ロータリーの存続は難しかったのではないでしょうか。そのようなロータリーの観点からも、しっかり勉強させていただきたいと思います。最後になりますが、先程のご挨拶で帯谷川崎北 RC 会長が「来てよかった！合同例会にするように、6RC 関係者一同で努力してまいりました」とのお言葉がありましたが、私も本日のこの合同例会が、本当にそのような例会になることを確信しております。

次年度ガバナー補佐紹介　第 2590 地区 第 2 グループ　鈴木正紀ガバナー補佐

本日、第 2 グループの 6 クラブ合同例会の開催にこぎつけました。107 名の出席と聞いています。多数の方に出席していただきまして、感謝申し上げます。本日のサブタイトルは「楽しく明るく元気よく」です。樋口ガバナーの合言葉であり、我々 7 名のガバナー補佐も合言葉にしております。後ほどご紹介があると思いますが、本日の久野様の卓話は楽しみにしております。最後にこの素晴らしい場所で、この様な盛大な会を段取りして頂いた川崎北 RC の帯谷会長、妻鹿幹事、川崎中原 RC の江口会長、井元幹事、そして事務局の岩崎さんにはお礼を申し上げます。
それでは、2024-2025 年度に第 2 グループのガバナー補佐をされます、川崎とどろきロータリークラブの高島眞美さんをご紹介させていただきます。2013-2014 年度と 2022-2023 年度に会長を歴任されておられます。また地区の方では、ローターアクト委員長や、危機管理委員も歴任されたかたになります。

高島眞美 次年度ガバナー補佐

次年度のロータリーのテーマは「ロータリーのマジック」というそうでございます。私たちロータリークラブは、いろいろな行動計画を持って仕事をさせていただいておりますが、ここで提唱されたテーマというのは非常に貴重なもので、それをもとに私たちの行動が始まります。この「ロータリーのマジック」は、どんなマジックになるのか楽しみにしております。どうぞこれから 1 年半よろしくお願いいたします。

卓話者紹介　**妻鹿琢生 幹事**

皆様のお手元の資料にあります通り、数多くの取締役や講師を務められており、東京大学経済学部と筑波大学の MBA を主席でされております。幼少期をサンフランシスコ（アメリカ）、中学高校生時代をロンドン（イギリス）で過ごされています。大学卒業後に起業され、人材系企業を経て、複数の外資系大企業でファイナンス及びマーケティングマネージャー、経営企画、組織変革推進、営業企画、ロジスティクスの各分野の部門責任者及び新規事業立ち上げ、営業部長を担当されておりました。
その後、ProFuture 株式会社の常務取締役兼 COO を経て、2015 年 12 月にコーチングを軸としてコンサルティングを加えたサービスを提供する総合経営支援企業、コノウェイ株式会社を創業、代表取締役社長に就任されております。認知科学を基礎とした最先端の「コグニティブコーチング」を習得し、コグニティブ・コーポレート・コーチングの発起人として、このプログラムの開発及び普及活動に尽力されています。大企業社長、中小企業社長からサラリーマン、OL、一流スポーツ選手やトップアーティストまで幅広い対象のクライアント層に対してコーチングを行っており、グループ、マンツーマンで、数千人に対してコーチングの実績をお持ちです。

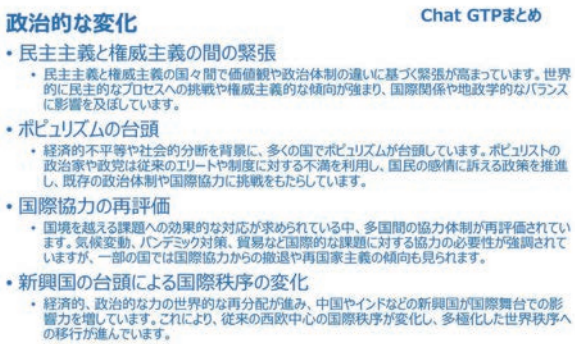
卓話　**コノウェイ株式会社**
代表取締役社長 久野和禎 様

「変化の時代にどう生きるか。何ができるか」

プロフィールにプロコーチ、講演家と書いありますが、プロコーチとは、どんな事をしているのか少しお話したいと思います。脳味噌の上手な使い方みたいな事をこういう場でお話をしたり、あるいは直接マンツーマンで色々な方にアドバイスするというのがプロコーチという仕事です。元々は色々な方にコーチングしていましたが、最近では、私の時間の制約から、企業のトップの方、経営者の方をコーチングすることによって、その会社全体に届くようにという事をやっています。経営者以外に一部トップアスリートなどもコーチングをする機会があります。そのひとりである菊池雄星さんにもコーチングをさせていただいていまして、この度、彼と一緒に岩手県の花巻市で野球施設を作る事になりました。2 週間ほど前に着工式がありまして、起工式と地鎮祭などに行ってきました。その前日に下見を兼ねて、初めて花巻温泉という温泉地に泊まりました。施設は石巻市に作るので、選手や関係者の方が宿泊する場所の下見と提携を考えての往訪です。宿泊した宿は、すごく賑わってました。岩手県の花巻温泉は有名な温泉地ではありますが、メジャーという程ではなく、知る人ぞ知る方々が訪れる程度で、たくさんの方が訪れるイメージは持っていませんでしたが、じつに多くの外国のお客さんが宿泊されていました。何割ぐらいの方が外国の方だったと思いますか？日本語はほとんど聞こえなかったんですよ。控えめに 8 割方が日本以外の方でした。それだけ外国の方が日本の色々なところに来てくださっている、これも世の中の変化だと思います。日本という国が今までのように日本人だけを相手にするスタイルのままでいて良いのかという疑問に対して、大きな問いかけを投げかけられてるような気がしました。本当に皆さんが楽しんでいらっしゃったんで、それは素晴らしいことだとは思うんですけれども、ロータリークラブが日本で活動していく上で、そのいろんな変化を受け入れていくということも大事なポイントんだろうなと思いました。

「AI とどう生きるか」

現在は「変化の時代」だと思います。「変化の時代」、ごく普通の言葉ですが、どんな変化があるか ChatGPT に聞いてみました。「現在は変化の時代です」っていう言葉だけを投げかけました。これだけです。そうしたら、ChatGPT は 15 秒ほどでちゃんと返して来ました。ちょっと読みにくいなと思ったので、「箇条書きでまとめてください」と指示したら、文章を箇条書きにまとめてくれました。「各項目についてそれぞれ 3 行で説明をお願いします。小項目の方です。」と指示したら、さっと答えてきます。



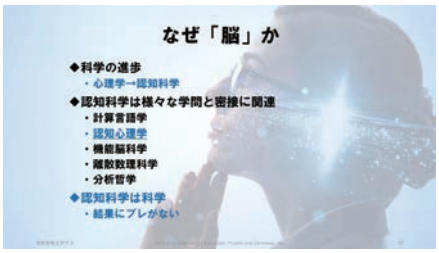
これで全て網羅されているかどうかという問題はありますが、それらしい回答を 30 秒ほどで返してくれます。

何がお伝えしたいかと言いますと、2024 年 2 月の段階で、AI はこれだけのことができるということです。まだ、色々な面で足りないと思いますが、これから 10 年、20 年と彼ら彼女らは育っていきます。これは強烈な変化だと思います。いろいろな変化の裏で、これから起きることはここに集約されてくるだろうなと思います。では、この先にどの様な未来があるのでしょうかという問いかけです。仕事が奪われるとか、あるいは生活が楽になるとか、いろんな解釈ができますが、ちょっと地に足を着けて考えた時に、怖くなるはずなんです。不安になるはずなんです。それが多分正常な感覚だと思います。なぜかというと、どう考えても成長のスピードが速く、これがどんどん賢くなっていくので、そのうち AI に支配されるようになったら、どうしたらいいんだろうと思うわけです。AI は電気がなければ動きません。電源を抜いて止まってくれれば人間の勝ちです。人間が電気を止めて、AI を止めようと思ったけど、AI が止まってくれなかった。私は自家発電してますとなったら厳しいわけです。100 年、200 年単位でいったら、自分で自家発電を備えている AI が出てきても、何も不思議はないと思います。AI はエネルギーがあれば 24 時間働き続けられます。エネルギーが電気じゃなきゃいけないかどうかも今後はわかりません。ただしそれは 10 年、20 年後ではない。でも 300 年後だったらどうなりますかと考えた時に、我々は死んじゃっているからいいやと思うのも一つですが、答えは簡単に出せません。よほど人間的に成熟していかないと、AI とうまく付き合っていけないだろうというところに意識が高められれば AI に支配されないことが可能なのかなと思っています。

「コンフォートゾーン」

私は認知科学を土台に皆さんに色々なことをお伝えしています。認知科学、認知心理学は脳と心の学問です。

認知科学は、いろいろな学問の集合体で、脳を解明するためにはプログラミングである計算言語であったり、あるいは数学的なことや哲学などの分野も含みます。先ほどお話した AI も、もともとは認知科学とともに育ってきました。人間の知



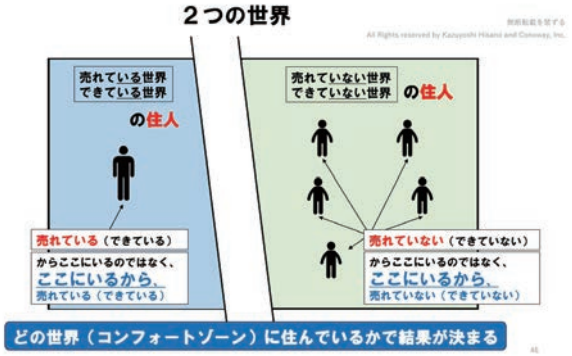
能の仕組みを理解してプログラムに落とし込むところ、知能を理解する部分が認知科学の役目だからです。人間の脳を理解して、それをプログラムに落とし込んで作られた人工知能がすごくなってきたということです。皆さんは「コンフォートゾーン」という言葉をご存じですか？コンフォートというのは「快適」という意味なんですけど、我々はちょっと拡張して「慣れ親しんだ」と言っています。コンフォートゾーン＝慣れ親しんだ状態です。我々には慣れ親しんだ現実に適応して生きていく力があって、慣れてしまうと普通なら絶対に嫌なはずなのに、平気になってしまうんです。例えば、散らかった部屋を一生懸命かたづけても、なぜか３日ぐらい経つと散らかった状態に戻ってしまう経験がありませんか。きれいにしても数日で元に戻っている。これはリスクがない限り慣れ親しんだ状態を維持しようと脳が働くからなんです。慣れ親しんだ状態を維持するようにできているので、元の散らかった状態に戻るわけです。北極熊が東京で夏を過ごすとぐったりしたり、南国の人が真冬の北国で凍えたりするのは、自分と違うコンフォートゾーンにいるからですね。慣れ親しんだ状態を維持するようになっているので、今いるところが妥当になるので、コンフォートゾーンを変えるのはなかなか難しいです。よく変わらない変わらなきゃと言われるのに変われない、脳は基本的に変わりたくないので当然の結果です。

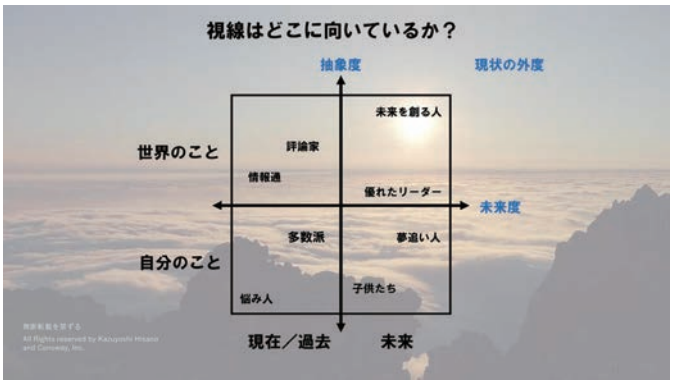
「脳の仕組み」

この絵をご覧ください。有名な絵ですからご存知だと思います。女性が見える。ふたり見えますか？これが鼻だったら70歳ぐらい。これが顎だと３～40歳ですかね。２つの顔が見えますけど、同時に２つの顔を認識できません。頭の中で切り替えるれば２人目が分かります。このように、人間の脳は２つのものごとを同時に認識できないんです。何故かというと、脳は今を強化するからです。２つ同時に見えないということは、いま見ているものだけが見えるんです。将来も見ようと思っても同時には見えないんです。人間の脳は仕組み上、２つの事象が同時に見えないようにできています。困るのが、さっき世の中変わっていますよとか、観光地に外国の方が多くなっていますよ、人手が不足していますよ、AIが便利になっていますよという話を聞いても、そうらしいね。でも何とかなるでしょうとなるわけです。それが社会全体の雰囲気だったら、じゃあどうしようと言っても、自分ひとりで騒いだところで周りの人に大丈夫と言われたら、自身も大丈夫と言いますよね。反対の事を言うと変わり者になります。それが人間の性質なんです。それを念頭に置いて、我々がどうしようかなと考えていく時だと思います。

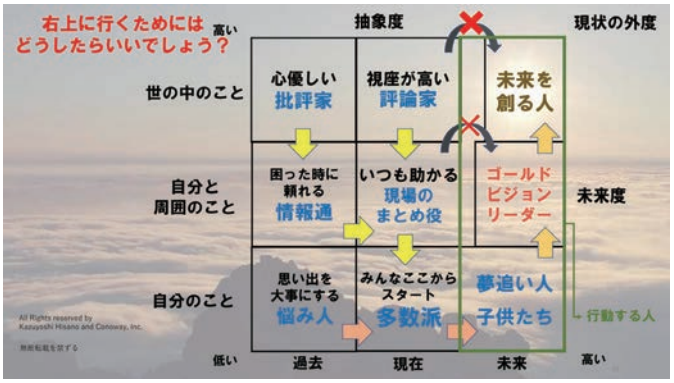
「2つの世界」

世界を２つに分けてみました。１つは売れていない世界、できていない世界です。できてない世界にはできてない社員がいっぱいいます。できていない社員は、できないからその世界にいるように思えますが、別の見方をすると、その世界にいるからできてないとも言えます。大切なのは「場」です。逆に左側は、できている人の世界ですが、その「場」に身を置くということです。ロータリーのような「場」に身を置けば、皆いい人になるんです。言い換えれば、そういう「場」が増えていけば、皆がよくなるんです。そういう「場」にいれば人は成長していくわけです。我々ロータリーが目指している世の中を良くしていきたい世界の住人と、そうではない世界との住人の間には、どうしてもそこにギャップが生まれます。これは選択の問題なんです。先ほどお話したように、脳は２つの事を同時には選べませんから、右側にいながら左側にいる、左側にいながら右側にいるという状態は生まれません。どちらかになりますので、右側の世界にいるできてない人が一生懸命頑張っても左側には行けません。だから自分で選ぶんです。どちらかを選んだ瞬間に、そちら側にどんどん近づいていくということが現実にあると思います。





これは私なりの提案ですが、自分のことを考えている人、世界のことを考えている人で、上に行けば行くほど世界の事を考えている人。右側に行く人は未来のことを、左側の人は過去にとらわれている人という感じで、色んな人をプロットしてみました。自分のことで手いっぱいで悩んでいる人は左下、過去と自分のことで手一杯です。子供たちは未来を持ってますが、人のことを考える余裕は当然ありません。夢追い人は右側にいます。大事なのは右上だと思いますが、もう一つ忘れてはいけないのが左上です。左上の人たちは世界のことを考えているようではありますが、割りと過去に囚われていて、形に囚われてしまっているので、評論家になりがちです。いろいろ意見を言うし、言ってる事も正論だけど、何もしない人です。ロータリアンはやっぱり右上のリーダーとして未来を作る人をめざしたいです。私がやっていることは、目の前の人に講演を通して、あるいは直接出会ったことによって、右上に行くのをお手伝いする事です。



先ほどの図は４分割で表しましたが、今度は９分割で表しました。この右上の未来を創る人やゴールドビジョンリーダーを目指す事が大事かなと思います。右側の緑のボックスに囲われているのが行動する人。真ん中から左上２枠の評論家・批評家にはならない様にしましょう。もう一つ注目して頂きたいのは、この中心の枠です。この真ん中の枠には現場のまとめ役さんが当てはまっていると思いま

す。現場のまとめ役さんは苦労していると思います。自分は前に進めないのに皆に頼られている。優秀な幹部がこの状態にはまっていないか。真ん中で動けなくなっていないか、ちょっと注意していただけるといいと思います。右上を目指しましょうという事なんですが、評論家の位置から未来を創る人にはなれないんですね。この様に下から回ってきましょうと。まず自分のことをとことん大事にしてください。今が精一杯で皆に頼られていて、自分の未来が見えない方は、一旦自分のことに集中してから進むと、すんなり上がっていきますよ、という話をさせて頂きました。

話がいろいろ飛びましたが、言いたいことは、ロータリアンは明らかに未来を創る人、もしくはこのリーダーであるし、一段とそうなるべきだとは思っています。今後、この考えを推し進めていかないと、何十年、何百年先の未来では、厳しい道になってしまう。自分たちが便利になろうと思って作ったものに飲み込まれてしまうリスクがあるので、前向きに考えていきたいなということです。皆さんへの最後の言葉は、「どんな未来を創りたいですか。」ということを一緒に考えていただければと思います。

ニコニコリポート

国際ロータリー第 2590 地区ガバナー 樋口明 様
第 2 グループ合同例会開催、誠におめでとうございます。本日は皆様と楽しみたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

国際ロータリー第 2590 地区幹事 黒田隆嗣 様
第 2 グループ 6 クラブ合同例会おめでとうございます。本日はお招き頂き、誠にありがとうございます。

全員
本日は全員ニコニコです。よろしくお願いします。6RC 合同例会、大変盛大な例会となりました。みなさまありがとうございました。

懇親会　川崎中原 RC 永澤拓 親睦委員